広報 肱川

人口と世帯

	昭和40年(s月末)	昭和45年(s月末)	昭和50年(s月末)
人口 男	2,836人	2,324人	2,074人
人口 女	2,941人	2,351人	2,149人
人口 計	5,777人	4,675人	4,323人（前月比9人増）
世帯数	1,274世帯	1,178世帯	1,100世帯

転入した人　17人
転出した人　10人

お知らせ

滝山～白石線の通行止め

期間　昭和五十年十月二十日～十一月三十日。
迂回路　歩行者は小藪遊歩道を。自動車は奥滝山～師走野線を利用して下さい。
（建設課）

お誕生おめでとう

大和　山内　吉晴さん二女由貴ちゃん
〃　〃　三女理恵ちゃん
中野　沖　仁さん二女祐子さん

おくやみ申し上げます

中野　植木ヤスさん（82才）

秋の道路愛護デーは十月四日。全戸参加して道を美しくしましょう。

奉仕への参加。体操をつづけよう。（一大切に」運動十月の目標）

ふりかえれ肱川町

「大切に」運動を考える

肱川町全体が、今ふりかえって考えて見なければならない問題、私たち四千二百人に共通の課題とはいったい何なのでしょうか。

生活を豊かにする美しい環境、整った地区社会、文化を育て公共財を大切にする心。―を目ざした町民運動（「大切に」運動）の発想はどこから生れ、なぜ必要なのでしょうか。今月はその糸をたぐって見ましょう。

住民参加の行政とは

町や村というものの意義をひもといていくと「昔からの生活の中に自然にきまった一定の区域の人たち自身が、その区域（町や村）の実状にてらしながら、最もよい形で助け合いながら生活してゆくもの。」ということになります。

何しろ私たちの生活の基本となる所なのです。県や国は、それが集っている組織で、ほんとうの自治体というものは町や村以外にはないといえます。

自治体の構成員は住民の人たちであって、その共同体の仕事を専門に考える（行政）のが職員ということになります。そして自治体の仕事は両者が一体となって進めるのが立て前になっています。

最近「行政への住民参加」という言葉をよく聞きます。これは何も制度が変ったのではなく、ただ、住民の方々が行政へ参加する気持ちの必要なことを誰もが認めるようになってきたのです。

「住民参加」は、町や村を考える場合、とても大切な基本ということが言えます。

肱川町はボロ町か

市町村は全国に三千三百もあります。その中で果して肱川町は私たちにとってどんな町なのでしょうか。まだまだ他によい町があるのでしょうか。

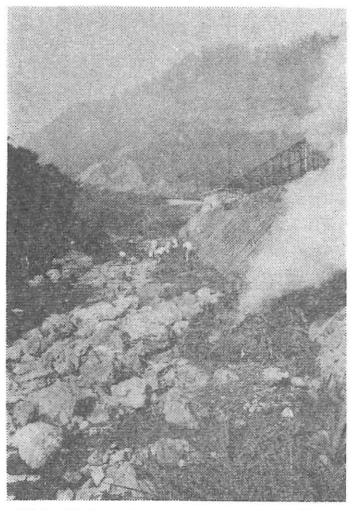
比べ方もいろいろあります。面積が広いか、人口が多いか、平地があるかなど……。

しかし私たちはとにかく肱川町で生れ、育ったのです。山があり、川があり温い人情があります。

多分皆んなよい町として受けとっており、簡単に見捨てたりはできないでしょう。

味も、気候も同じである国内であってさえ、二、三日も旅をすれば、ふるさと肱川の山や川が恋しくなる私たちです。

そんな肱川の地域や町は誰が守り誰がよくして行くのでしょう。それはやはり他人ではなくお互い私たち以外にはいないと思うのです。



誰かがすてたナイロンや鉄くずを拾って見ると，捨ててはいけない心が……　（岩谷で）

よさを知って環境を大事に

豊富な資源、美しい自然がいつの間にか見捨てられたり、汚されているのはとても残念です。壊す、汚す原因とは何なのでしょう。

資源を大切にしよう環境を守ろうといっても、そもそも、〝肱川のよさ〟がわからないとその気持が湧かないでしょう。

東南アジアのある国の写真、栄養失調で腹だけふくれた子供達、砂だけの大地……。私たちが比べて見てはじめて知る〝よさ〟〝幸福〟さ〟大切さ〟です。

協調の心

町にとって一番大切な中味は、いうまでもなく、住民の人たちの心です。

みんなが利用する道路を，みんながきれいに――ここには奉仕の心が。（萩の尾で）

「大切に」運動は皆んなの心で

役場は町の仕事を専門に考えたり実際に進めたり、又は住民の方々の代理を果すためのものです。

しかし、「大切に」運動のように住民全体の問題、巾の広い大きな課題、心の問題は、行政の力だけではとても達成できるものではありません。

「大切に」運動は住民の方々が心から参加していただきたいのです。参加して一緒にやってゆく中で、いろいろの実態や問題を身をもって知っていただくことが又次の契機となり行政への参加となるはずです。

小さいことから大きな成果

「大切に」運動は、目新しいことや、むずかしいことをすることではありません。

花のあるやさしい心、なごやかな家庭、老人をいたわる心などを手はじめとして、私たちが社会人として必要な当然のことを意識することから、又誰にでも心の底にある物事に対する正しい評価を一つでも形にすることによって、いつしか肱川町という広い場に〝豊かさ〟となって実現することでしょう。

子どもの作文集

ふるさとことば

小藪　宇都宮文恵

「きょうは、（たいへんよ）がいにええ天気じゃのう。（ですなあ）」

「ああ、そんじゃん、（ですけれども）ながいだもちゃあええがのう。（長い間）とまあ、わたしたちのところでは、こんなことばを使っている。都会の人が聞いたら、どう思うだろうか。「やっぱり、いなか者だなあ。」ほとんどの人は、そう思うにちがいない。

しかし、少し考える人は「暖かい感じのことばだなあ。」と、思ってくれるのではないだろうか。

わたしたちは地元だから、そういうひいきめな考え方をするのかもしれないが、やはりいなかのことばはいいと思う。

去年の十月、京阪神方面へ修学旅行に行った時、友達のひとりが、急に都会のいわゆる「ねえねえことば」を使いはじめた。わたしは、その友と一緒にいるのが、いやでたまらなかった。これは、はっきり言えば、自分たちのことばを、ばかにしたことである。

「山の子だと思われるのはいや。」と、こう言うのである。わたしは、それは、大まちがいであると思う。もっと、「ふるさとのことば」を大切にしてほしい。

それから、最近、就職して都会へ出て行っている人と話していると、さびしくなることがある。もう、「ふるさとのことば」が、まったくなくなってしまっているのである。さびしいどころか、しだいに腹立たしくなってくる。

なぜ、このように自分たちのことばをきらうのであろう。もっと、自分たちが山の子供であることに誇りを持つべきである。少し大げさかもしれないが、本当にそうなのだ。わたしの言いたいことがわかってもらえるだろうか。「何もはずかしいことはない。『ふるさとことば』はりっぱな日本語である。」ということを忘れないでほしいと思う。

肱川町は、いわゆる「山」をどのように応じて、使い分けるものであろう。決して、「はずかしい」ことばだなんて思わないでほしい。

ご注意!!物品販売・あっせんについて

町内のいろいろな役職の方に協会や町外の業者から直接依頼することは断っておりますが、役場で知らないうちに自宅に行き役場があっ旋しているように言って、物品の販売、広告掲載等を行うことがありますが、不審な場合は必ず役場へ照会して下さい。信用のあるものは、役場からお知らせすることにします。

議員さん出番です

西本源格さん

◎農業問題について

農業の問題はいつの時代でも難しく、またよけたがるのですが、だからといって肱川で農業でやってはゆけないとあきらめてしまっては、われわれの世代から後は家は残っても青年はおらなくなり、しまいには世帯も消滅してゆき、そうなれば商業もさびれますから、これは皆んなで取組むべき重要な地域課題だと考えておるのですが…。

今度出た新議員はいずれも専業農家なので時間があれば先進地の視察とか勉強会をやって（町もやっていますが）議員も各地区、部落へ出向きそこの状態を調査研究し、また意見が聞ける機会をつくろうではないかと話しているんです。

肱川町の農林業の問題は皆で話し合って、意見を聞いて、計画をたてて進めてゆくのでないといけんのじゃないかと……。それで年に一、二回は町、議員、農業委員、農協や森林組合の理事が会合して農林業問題や地域の振興について研究討議してはどうかと考えとるんですが……。

◎好きな言葉は

「成せばなる、成さねばならぬ何ごとも、ならぬはぬなりけり」私はこの言葉を困難にぶつかり行詰ったときはいつも思い出して〝やったらやれるのだ〟と自分にいい聞かせています。

◎人間の幸福とは

一口でいえば心のもちようだと思いますね。不幸と思えば不幸といえるし、食べるものがなくてひもじいのでは幸福とはいえず、またお金がたくさんあればそれが幸福ともいえないし、まあ十分食べられて人間としての生活ができ健康であれば幸福といえますかね。

（住所は中居谷正覚。家族は妻美喜子さん四十四才、母カメヨさん七十七才、養子資久さん二十八才、本人は年令五十五才）

◎尊敬する人物は

別にないんですが、歴史上の好きな人物でならば信長、秀吉、家康の中では秀吉です。

一口医学

子どもの虫垂炎

暑さ疲れのためか、夏休みの不規則な食べすぎが原因するのか、子どもの虫垂炎が多いようです。

しだいに強くなる腹痛と、くり返すおう吐微熱なども主な症状で俗に盲腸炎といわれています。

二才以下はまれですが、三才をすぎるとだんだんふえてきて、六～十二才ぐらいの年令が一番多くなります。

虫垂炎には伝染病のような潜伏期はありません。

多くは突然おこります。大きな子どもだと〝へそ〟のまわりとか、みぞおちのあたりが痛いといいますが、小さな子どもははっきりした腹痛の場所はいえません

急性腸カタル、大腸炎、腸重積症などとまちがえることもありますが、子どもは細菌に対する抵抗力が弱く、短時間に病状がすすみますから、手おくれにならないうちに早く医師に診せて下さい。それまでは安静にさせ、やたら薬をのませないように。

十月一日は国勢調査。調査員が訪問します。ぜひご協力を。

愛媛県警察官募集

※
・受験資格
・年令　昭和五十一年四月一日現在で十八歳以上二十八歳未満の男子
・学歴　学歴は問いませんが、高等学校卒業程度の学力のある者
ただし、四年制大学を卒業した者及び昨年三月末日までに卒業見込みの者は受験できません。
・体格　身長おおむね一六〇cm以上で身体健全であること。

※
受付期間　昭和五十年九月十六日から十月十八日まで
試験日時、場所　第一次（学科）十月二十六日午前九時　松山工業高等学校　宇和島南高等学校

情報室

妊婦検診

とき、十月八日十三時三十分～十五時
ところ、肱川町公民館
医婦、大洲市石田保先生

乳児健康相談

とき、十月二十日十三時～十五時
ところ、肱川町公民館

人権法律相談

とき　十月十五日（水）十時～十五時
ところ　肱川町公民館（町民課）

心配ごと相談

（開設日）
九月二十五日　谷本・佐久保・戒野相談員
十月五日　宮本・長田相談員
十月十五日　楠野・下石相談員
十月二十五日　兵頭・堀尾相談員
ところ　肱川町公民館
受付　九時～十六時
（社会福祉協議会）

部落自慢ばなし

汗生　土居哲雄

あせぶ部落は、昭和のはじめ頃まで、「阿施布」と呼んでおりましたが戦時中は一時萩野尾部落と合併して「大萩」と呼んでいた時期があります。

これはあせぶ部落が土地台帳上では「大成」となっている関係から大の字をとって名付けたもののようです。

それがどうしたことか萩野尾と分離した時点から「汗生」に変っております。不思議に思って、古老に聞いてみると、あせぶにあった表岸城の別名「汗生城」を即部落名にしたということでした。

ともあれその頃から部落民は何かにつけて、よく呑みよく語り合い、いさかいなどがあった記憶はありません。たまに土地の境界などの思いの違いもあったようですが、いずれも両者が近所の人に白紙委任をしてはかって解決をしました。

また当部落は現在二十八戸で町全体からみると平均的な部落ですが、道路の延長は、起点の高砂から終点まで五・五㌔ありますので、町内では最も広範囲に人家が散在しております。

しかしこの道路を新設するときも、コミュニティーづくりの基本である「妥協と協調」が得られ円満に事業が進行いたしました。

さて当部落の場合、この妥協と協調を得るための媒体は酒であり、部落の有林も三㌶余りある関係もあって、年度始めから年度末までの間の共同作業や会合などの後では、ほとんど一献くみ交して別れております。

なお当部落では現在新しく集会所を建築中ですので今年末には、香りのよい畳の上で、盛大な忘年会が催せるものと大いに期待しているものです。

昭和50年　国勢調査

今年の十月一日に、第十二回、国勢調査が全国一斉に実施されます。

国内に住んでいるすべての人を対象に、一人もれなく調査する、五年に一回の最も大切な基本的調査です。調査もれの人がないよう皆んなが協力しましょう。

健康優良老人に長田トクノさん

共栄の長田トクノさん（九十六才）は、このほど、県老人クラブ連合会長から健康優良老人として表彰を受けられました。

九十七才とは思えないほど元気な長田トクノさん。いつまでもお元気で……。

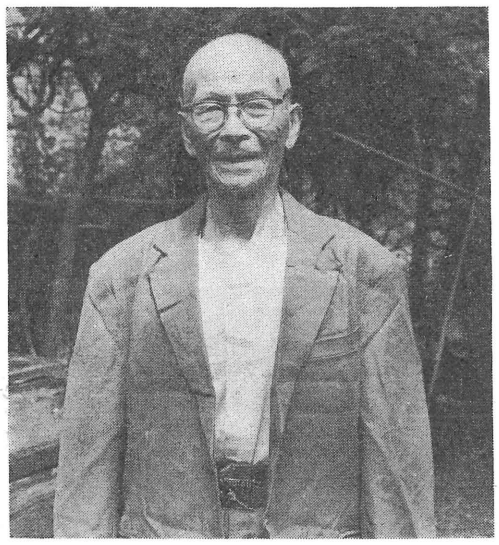
この審査会は、県老人クラブ連合会と県社会福祉協議会の共催で毎年行われているもので当町では二人目。

トクノさんは、いまも、一炊事や畑仕事を元気に続けておられます。

インタビュー

運動はせないけませんぜ

肱栄　村上伝吉さん（九十二才）



運動は長寿の秘けつと語る村上さん

明治十六年九月十八日、城川町に生れた村上さんは「若い頃は、遊び放題遊びましたい。」高知、大阪、九州と転々と職を変え、ところを変えたという。

「別府では、大阪商船に乗り組んだり、九州の炭坑におった こともありますらい。」

「土佐では、旅館もやってみましたが、飲みつぶされてしもうて……。それから大地におりますらい。」

当町に住みついて六十六年といわれるから、明治四十二年（二十六才）頃のことであろう。

当時大地には、物産問屋や製糸会社があり医者もいたという。

その頃、兵頭さんの営む物産問屋の下で、坂石から大洲まで筏流しをされていた。「イカダ流しは、二〇年以上やりましたぜ。」

十年ほど前奥さんを亡くされた村上さんは、子供もなく現在一人暮しである。「ここえ来てから近所の人が半数は経られた（亡くなられた）が、どこの家にも嫁がきて子供ができた。」「みんなにお世話になるばかりで、わたしはお返しができん。」とじっと考え込む。

しかし、今日も「栗畑でごぞごぞしよりましたい」と汗を拭く村上さんは、とても九十二才とは思えぬ元気さである。

「としよりは歩きまわっちゃいけんとみんなに言われるのじゃが。」家に居るとたばこを一日に六十本飲むという。

「運動はせないけませんぜ」、「近所に二つ年上の人があったが、その人は『たいぎいけん、酒でも飲んで寝るのが一番ええぜ』と言よってじやったが、五、六年前足が立たんようになって終られましたい。」

「運動はせにゃいけませんぜ」と強調された。

酒は正月に一升買ったら一年あるとのこと。

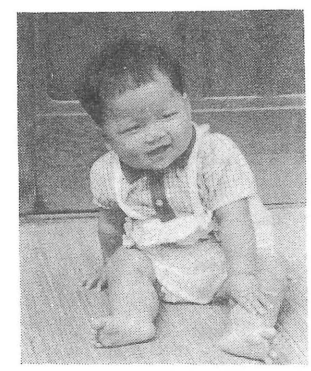
いま町内には、一人暮しのおとしよりが、五〇人おられます。

「おとしよりに愛の一声を」

こんにちは赤ちゃん

徳本直子ちゃん

生後7カ月半



小藪、徳本寛夫さんの二女（第四子）

直子ちゃんは毎日母乳をたっぷり吸ってこんなに大きくなりました。体重はお誕生過ぎで九・三㌔あります。歯も二本はえました。

直子ちゃんは離乳食がほしいのですが、お母さんが忙しいのとお乳が沢山あるためかあまり離乳食を食べさせてくれません。

食事の時みんなおいしそうに食べていると直子ちゃんもほしいのです。

お母さんが食べているお茶わんをひかえると、ご飯を少し口に入れてくれます。

でも私の胃は食物にまだなれてないのでご飯はまだこわいようです。

体重からいえばお誕生すぎだから子供茶わん一杯くらいの離乳食は食べられる頃だけど、まだ離乳の始まりなので軟らかいものを少しづつ食べさせてね。

保育園に行っているお姉ちゃんがとても可愛がってくれます。

私は太ってるので重いのにお姉ちゃんは一生懸命うづんであっち、こっちとひきづりまわされ、一寸しんどいけれどお姉ちゃんと遊ぶのは嬉しいです。

三才のお兄ちゃんは一寸乱暴で髪の毛を引っぱったり、頭をぽんとつついたりします。でもあまり強くはありません。

直子ちゃんは今おじいちゃん、おばあちゃん、兄ちゃん、姉ちゃんと楽しい家族構成の中ですくすくと成長しています。

役場紹介

企画経済課の巻

七月から企画調整室と産業建設課産業関係を一つにして、企画経済課になりました。

この課は大別して三つの仕事をしております。

その一つは企画広報主任を中心に、町の発展をはかるための調査研究そして計画、住民の皆さんから要望された事業の総合調整、広報紙（肱川）を発刊し、町内のいろいろなことをお知らせしています。

国勢調査をはじめ、農業、工業、商業など各種統計の調査事務も行っております。その二つは、農林振興主任を中心に、稲作、栗、養蚕、畜産、たばこ、林業シイタケなど農林業の各種事業をすすめ、生産増強と経済がよくなるような仕事や、農業委員会の事務局をもって、農業者の利益代表である農業委員の皆さんによる会を開いて、農地に関する決議や町の農業問題について調査研究検討をしております。

その三つは、商工観光室長を中心に、商業、工業の発展と観光についての各種事業、行事をおしすすめ、観光充実のための施設の整備を行うような仕事をしております。

この課の仕事は住民皆さんの経済に直接つながる窓口なので課員全員一生懸命張切って努力いたしております。

ごみ収集方法が変わりました

―十月一日からは内山衛生組合で―

これまで、鹿野川地区の各家庭のごみは、町が鹿野川環境衛生組合へ委託して収集処理を行ってきましたが、このほど、内子町に共同のごみ焼却施設が完成し、十月一日から収集処理を始めることになりました。

年々急増するごみに対処して、隣接町村が共同で建設を進めていたものです。

○収集範囲

可燃物については、従来収集を行ってきた鹿野川地区のほか、赤岩、汗生部落の国道沿線及び岩谷地区の県道沿線が収集可能となります。

不燃物については、従来どおり収集します。

○ごみの持出し方法

ごみ（可燃物）は、必ずポリ袋に入れて口を固くしばり、収集日の早朝に所定の場所へ出して下さい。

なお、持出す場所は、隣近所の三戸～五戸で協議のうえ、道路側の交通の邪魔にならない場所を定めて下さい（月々変更も可）。

○収集日

可燃物―毎週二回（火、金曜日の午前中、ただし、岩谷地区は、月、木曜日）

不燃物―三か月に一回程度、その都度通知します。

○料金（可燃物のみ）

一般家庭　月一〇〇円
食品業者等　月二〇〇円～三〇〇円

肱川町ごみ燃却場は、十月一日から閉鎖しますのでこの附近へごみの不法投棄は絶対にしないようにして下さい。